

| 期末評価 | |
|--|--|
| ○ 成果と▽ 課題 | ● ▼ 次年度への方策等 |
| <p>【国語】</p> <p>○言葉に対して主体的に理解を深めようとする生徒が見受けられるようになった。</p> <p>○文章構成を考え、周囲の友人たちに積極的に意見を伝達しようとする生徒が増えた。</p> <p>▽全体的な学力として区平均と同等の水準に到達しているが、文章を書くことに課題あるため知識の定着だけでなく、活用することが求められる。そのため、授業内で思考する時間を多く設けていく。</p> | <p>●知識を活用しようとする姿勢は見受けられるものの、誤って活用していたり、文の構成や語彙の選択がうまくいかず、適切な表現ができないことがあった。そのため、一年生より体系的に作文指導や、話し合い活動を設け、自分の考えをもち、共有し、確認できる授業を展開する。</p> <p>▼古典作品や文法の学習では知識の伝達だけの時間が授業計画の中に生まれてしまうが、これまでの既習事項から知識の発見や確認が行えるように、思考を促す授業を行う。</p> |
| <p>【数学】</p> <p>○問題集やプリントの活用等を通じた演習の反復を行うことで以前より知識・技能の定着が見られる。</p> <p>▽新宿区学力定着度調査の結果から、教科総合正答率が区平均を 4.2～4.6 ポイント下回っている。一方で、学力層の観点では、A層は 20 ポイント以上に対し、D層が 30 ポイント以上であるため、習熟度の低い生徒の学力向上が課題である。</p> | <p>●今後も、問題集やプリントを活用して、基礎的・基本的な内容を、主体的に学習できるよう粘り強く指導にあたる。</p> <p>▼習熟度別のプリントや、デジタルドリルを活用し、自身の習熟度に合わせた学習に取り組める環境を整える。</p> |
| <p>【理科】</p> <p>○問題集やプリント、デジタルドリル等を活用して、既習事項の反復練習をする時間を授業時間内外で確保したことで、基礎的・基本的な知識・技能の定着が見られる。</p> <p>▽新宿区学力調査の結果から、生物分野の正答率が区平均を下回っており、知識・技能の問題を苦手とする生徒が多い。</p> | <p>●今後も、問題集やプリント、デジタルドリル等を活用して、反復練習を行う機会を多く設け、知識の定着を図る。</p> <p>▼次年度の授業で前年度の復習を取り入れ、デジタルドリル等を活用し、さらに基礎・基本の定着を図る環境を整える。</p> |
| <p>【社会】</p> <p>○問題集やプリント、デジタルドリル等を活用した学習により、基礎的・基本的な知識・技能の定着が見られる。</p> <p>▽新宿区学力定着度調査の結果から、地理的分野の正答率が区平均を 4.7～7.0 ポイント下回っている。また、学年によってばらつきはあるものの、思考・判断・表現の問題を苦手とする生徒が多い。</p> | <p>●今後も、小テストや課題等を細かく設定し、学習内容のより一層の定着を図る。</p> <p>▼地図資料の読み取りの機会を増やし、ICT 機器も活用しながら、地理的分野の理解を深めさせる。また、このような学習を通じて、他分野とのつながりを意識させ、全分野の理解を深める学習につなげる。また、学習のまとめや発表など、学びを言語化する活動の充実を図る。</p> |

【英語】

○ペアでの単語や会話練習を毎時間取り入れることで、単語や会話表現の習得へのモチベーションを高めることができた。区学力調査では、領域別で「聞くこと」の正答率が最も高く、聞く力を生かした練習が効果的と考えられる。

▽新宿区学力定着度調査では、全体的に区平均を下回っており、特に「書くこと」の領域で最も大きな差が見られる。英作文の練習を段階的に積んでいく必要がある。

●今後も、基礎的な語彙力の強化を目指していく。また、実技テストや ESAT-J に向けた練習を通して、生徒の発話量を増やしながら、即興性を意識したスピーキング力の向上を図る。

▼ペアワークやグループワークでの練習を通して、積極的に英文で表現する環境をつくる。同時にデジタル教科書やタブレット端末を計画的に活用しながら、個別最適な学びを進めていく。